

救急救命講習会が行われました(2年生)

7月10日(水) 富来分署の方々に講習会をして頂きました。救急搬送される疾患(症状)についてのお話と一次救命の実技演習(胸骨圧迫、AED操作)を学ぶ有意義な時間となりました。生徒の感想を紹介します。

◆「命を救うことって難しいよな…」 そう思っていたけれど、実は誰でも心肺蘇生を行ったり、AEDを使用することで、人の命を救うことができることを学びました。

◆救急救命講習を受けて、人を助ける仕事は大変なのだなと思いました。もし、人が倒れていたら僕は焦ってしまうと思います。なので、救急救命講習で習ったことを思い出して、しっかり実行したいと思いました。

◆救急救命について深く知ることができました。「胸骨圧迫が上手い！」と言われて、自信ができました。もし、倒れている人を見つけたら進んで行動しようと思います。「AED使えますか？」と聞かれたら、「はい！」と答えます。

◆胸骨圧迫の仕方やAEDの使い方が分かりました。胸骨圧迫は、初めは簡単だろうと思っていたけど、実際にしてみると、すぐに疲れて難しかったです。これを救急車が来るまで続けるのは体力がいるなと思いました。AEDは、音声案内がとても助かるなと思いました。

◆今日の講習の中で特に印象に残っているのは、心肺蘇生法と空気鉄砲法(誤飲時の異物除去方法)です。もし、家族が急に心臓が止まってしまった場合、僕が心肺蘇生法をして助けようと思います。以前、家族が喉に食べ物を詰まらせて危ない時があったので、もし次にそのようなことがあったら、この空気鉄砲法を活用して助けようと思います。



裏面もあります

みなさんからの質問にお答えします ~Q&A~



◆救急救命士になるのは、難しいですか？

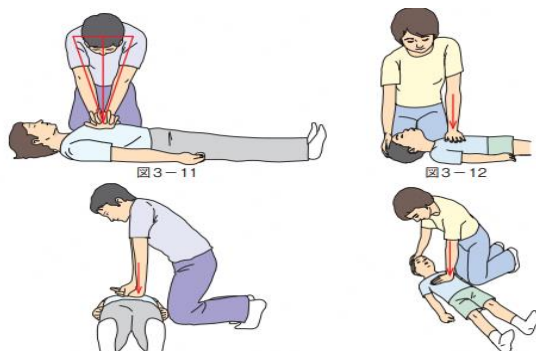
⇒救急救命士になるには、国家試験に合格する必要があります。多くの勉強を必要としますが、確かな技術と知識で人の「命」を救う「救急救命士」という仕事は、非常にやりがいがあります。将来、共に働けることを期待しています。

◆地域で周りに人がいなくてスマホも持っていない場合どうしたらいいのか気になった。(3年生)

⇒とにかく協力者を呼ばないといけません。携帯電話を持っていれば、自分で119番通報します。周囲に誰もいない場合は、大きな声を出して近くを通りかかった人を呼んだり、その場から離れてでも人を呼びに行きます。まずは“人を呼ぶ”ということを忘れないでください。

◆体が小さい子供などに対しての胸骨圧迫は、何センチくらい沈むのが適切ですか？(3年生)

⇒小学生未満の子供に対しては、胸の厚みの約1/3が沈む込むように胸骨圧迫します。
胸骨圧迫のテンポ(1分間100~120回)、胸骨圧迫と人工呼吸(30回:2回)は、成人と同じです。



小学生未満の胸骨圧迫

◆胸骨圧迫するとき肋骨が折れてしまいませんか？(3年生)

⇒小学生以上の人に対して、胸の厚みの5cm沈む力で圧迫が必要になります。

胸骨圧迫は、健康に心臓が動いているときの約3割程度しか心臓の動きをカバーできません。そのため、十分な強さがないと、有効な胸骨圧迫となりません。

実際、高齢者など骨がもろい人は骨折することもあります。ただし、骨折が致命傷になることは少なく、“強く・早く・絶え間なく”胸骨圧迫を続け、救命を優先すべきです。



学校のAEDはどこにあるでしょうか？ 自宅の周りや他の施設にもAEDがどこにあるのか知っておくと、すぐに活用できますね。

※カラー版は、富来中学校HPからご覧になれます。